

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 医療福祉経営研究所

②事業者情報

名称：	地域密着型特別養護老人ホーム むさしの	種別：	特別養護老人ホーム
代表者氏名：	吉江 孝行	定員(利用人数)：	29 名
所在地：	〒 354-0011 埼玉県富士見市大字水子1882番1	TEL	049-275-6300

③評価実施期間

平成29年7月1日（契約日）～平成30年1月10日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

「職員への浸透を図るために、職員面談時には必ず理念を伝えていきます」  
事業所として、全体としての目標、向かうべき方向性が示されている「法人理念」の職員全体への浸透を図ることが重要であると考えています。浸透させていくための取り組みとして、ホームページや施設内掲示の他、職員面談時には法人理念を経営層から直接伝えるようにしています。また、面談時には職員の業務評価も行います。自身の業務、目標や業務と法人理念を結びつけて考えられるようになることで、職員全体への浸透を図っていこうと考えています。

「業務評価制度を実施し、職員全体のスキルアップに繋がっています」  
「業務評価制度」は、常勤、非常勤を問わず事業所の全職員が法人理念、方針に基づいた個人目標を設定しています。年3回の上長との面談にて、進捗状況の確認、年度を通しての振り返りや達成状況の評価を実施しています。また、前年度の未達成、改善事項を踏まえた目標設定をすることで、自己の課題を明確にし、職員の着実なスキルアップに繋がっています。

「利用者のできることに着目した支援を行うことで、自立に繋がっています」  
食事は主菜を2種類の中から、その場でメニューを確認しながら選ぶことができ、利用者の「選ぶ」という保持している能力を発揮できる場面を作っています。また「車イスは移動の手段である」という考えから、食堂で過ごす際には車イスから椅子へ移って過ごすことができるように支援する等といった支援を通して、利用者が保持している機能の維持、向上に繋がっています。

◇特にコメントを要する点

「中長期をふまえた単年度の計画の更なる職員への浸透が期待されます」  
事業所の単年度事業計画は、中長期計画を意識した計画になっています。しかし、事業計画の職員への浸透、理解度、計画の実行性といった点では課題があると経営層は感じています。今後は、より職員が計画を自分事として捉え、事業所全体で取り組むことができる計画の運用への取り組みが期待されます。

「利用者に対するの接遇、尊厳を守った支援の統一へ向けた取り組みを始めています」  
接遇研修や尊厳についての研修を実施し、より適切なコミュニケーションが図れるような取り組みをしていますが、「接遇」や「尊厳を守った関わり」を統一・浸透できていないことを事業所として課題であると感じています。言葉による抑制のマニュアル作りやユニット会議等での支援の振り返りなど、具体的な取り組みが期待されます。

「24時間シートの工夫や更なる活用が期待されます」  
利用者一人ひとりの過ごし方が、詳しく記載されている24時間シートを作成し、寝たい時間や起きたい時間は健康に支障がない範囲で自由に過ごすことができます。24時間シートの内容として過ごし方とは別に、「利用者の気持ち」や「利用者のできることに、サポートが必要なこと」の記述欄を設けることで、より利用者の意思や意向を反映した支援に繋がることができると推察されます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

ここ数年、法人理念の浸透を大きな課題とらえ事業を進めてきました。職員には理念達成のための組織の一員であることを意識するように、と年3回の面接時に伝えてきました。その結果、日頃のサービス提供を進める上で職員との合意形成がしやすくなりました。それが利用者サービスにも良い影響を与えていると思います。開設から5年を経過しておりますが、経験年数の少ない職員が多いことから職員との面接には時間を割き職員とのコミュニケーションを大切してきました。また、利用者の自立支援について評価されたことについては職員の努力の結果です。

特にコメントを要する点については事業所全体で課題解決ができるよう次年度以降の事業に活かしていきたいと考えています。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり